



ART感覚も育まれる開放的な間取り。陸くんは全国大会出場のピアニスト。

玄関リビングキッチン洗面・お風呂をつなぐ通路は、子どもたちが自由に、回遊できるデザイン。



玄関には、裸足で新聞を取りに行ける“通路兼棚”が。



これが道産細丸太の上り棒。遊具・健康器具・はしごの、1本3役?!



家の外も広々。ここにも鉄棒があります。



ロフトは子どもたちの格好の遊び場。

わが家は やすらぎの 遊園地。



五十嵐奈央さん

この家に住んで、化学物質過敏症もラクになったそう。

五十嵐悟さん

壁塗り・柱磨き・レンガ貼り……と、内装仕事にモリモリ参加。

青哉くん

湊介くん

陸くん

おうちの中に、上り棒?!

「子どもたちがノビノビ暮らせる家」がメインテーマだったという五十嵐家。壁や間仕切りがなく、ハンモック、上り棒、入り組んだロフトなど、ワクワクの種がアチコチに散りばめられていて、大人でも思わず目が輝いてしまいます。

「上り棒のリクエストをしたら、設計士さんが持つて来たのが、道産材の丸太。普通の上り棒よりずっと太くて、最初はみんなビックリでしたが、子どもたちは大喜び。長男は木登り感覚で、スルスル天辺まで行っちゃうんですよ」という奈央さんの言葉通り、陸くんは、森に住む先住民族のように巧みな足使いで上り、たちまち頭上のロフトへ雲隠れ。次男の青哉くんも、お兄ちゃんのマネをしているうちに、天井タッチを達成。この様子なら、体力も創造力も、自ずと鍛えられちゃいますね。

何を聞いても、 パッと答えてもらえるんです。

「住まいnet北海道」で、ビオプラス西條デザインさんを知ったんですよ。そのあと伏古のモデルハウスを見て即決しました。私が化学物質過敏症なので自然素材の家にしたくて、健康住宅を謳っているいろんなハウスメーカーを回りましたが、材料について聞いても答えられない会社ばかり。素材のほとんどが、〇〇風という感じで、



いい家づくりは、子どもが基準。

合板を避け無垢の木の家づくりにこだわる一番の理由は、子供たちを化学物質から守るためです。一番敏感で弱い命に基準を置けば、自ずと誰の心身にも優しい、五感に心地よい家になるのです。放射能汚染でもわかるように、化学物質などの安全基準は成人の健康な大人が対象。大人の勝手な理屈は、子どもたちには当てはまりません。

エコデザイナー 西條 正幸



この記事の続きは、HPでお楽しみください。
<http://www.saijo-d.com>

本物ではないしね……。でも西條さんのところは、どんな質問にもすぐ答えてくれたし、素材もちゃんと本物。気持ちよくて、大満足です。今年はこの家で初めての夏でしたが、外がジメジメしていても、家の中は湿気がなくて気持ちよかったですね」と、奈央さん。

珪藻土の壁塗りだけでなく、柱磨きやレンガ貼りも手がけたという悟さんは、「うん、外から帰ってくると、家の中の空気が澄んでると感じますね。家づくりに思い切り参加したので大変でしたが、その分愛着がありますね。この家の好きなおこと、いや〜全部ですよ」と、柱をなでなで。

自然素材の五十嵐家では、パパもママも、地球のこどもの笑顔でした。

BiO+
BioPlus西條デザイン

◎企画・設計 有限会社 ビオプラス西條デザイン
本社:〒002-8081 札幌市北区百合が原4丁目8-1
Tel.011-774-8599 Fax.011-774-8581

Vol.6

ECOさんが
帰る場所

HOME GROUND of
ECO-LIFE